

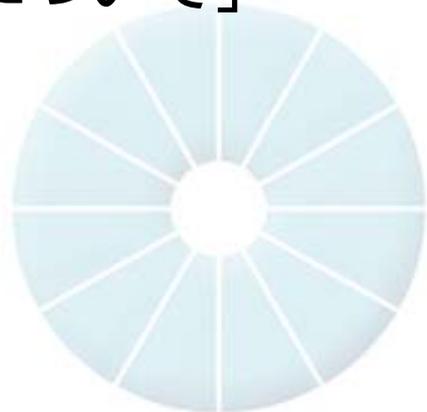
中央教育審議会の最新動向

● キャリア教育・職業教育特別部会

- 平成20年12月24日 設置
- 平成21年7月30日 第一次審議経過報告
- 平成22年5月17日 第二次審議経過報告
- 平成23年1月31日 答申

今後の学校における
キャリア教育・職業教育の在り方
について

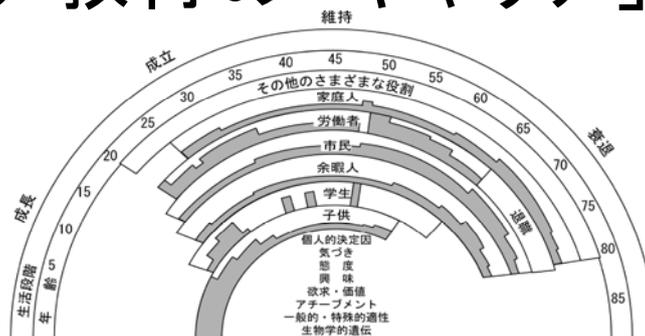
中央教育審議会答申 「今後の学校におけるキャリア教育・ 職業教育の在り方について」 のポイント



1. キャリア教育とは何か

【社会的・職業的自立に向けて必要となる力を育てる】

キャリア教育の「キャリア」とは？



人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員など、様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。また、このような役割の中には、所属する集団や組織から与えられたものや日常生活の中で特に意識せず習慣的に行っているものもあるが、人はこれらを含めた様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を重ねながら取り組んでいる。

人は、このような自分の役割を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会にかかわることになり、そのかかわり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものである。

このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。

キャリア教育と進路指導

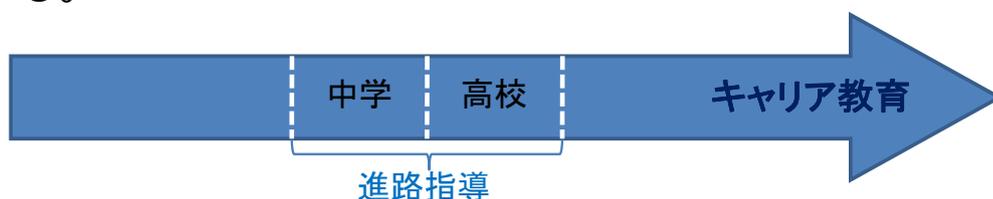
- **キャリア教育** (中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」 H23)
 - 一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育
- **進路指導** (中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」 H23)
 - 進路指導は、本来、生徒の個人資料、進路情報、啓発的経験及び相談を通じて、生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、就職又は進学をして、更にその後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、どのような人間になり、どう生きていくことが望ましいのかといった長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。
 - このような進路指導のねらいはキャリア教育のめざすところとほぼ同じ
 - 【参考】定義・概念としては、キャリア教育との間に大きな差異は見られず、進路指導の取組はキャリア教育の中核をなすことができる (キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 H16)

進路指導とは何か

- **進路指導が目指してきたもの**

『進路指導の手引—個別指導編』より

 - 進路指導は、卒業時の進路をどう選択するかを含めて、さらにどういう人間になり、どう生きていくことが望ましいのかといった長期的展望に立っての人間形成をめざす教育活動である。
 - 進路指導は、個々の生徒に、自分の将来をどう生きることが喜びであるかを感じ得させなければならないし、生徒各自が納得できる人生の生き方を指導することが大切である。



勤労観・職業観とキャリア教育

- 中央教育審議会「初等中等教育と高等教育との接続の改善について(答申)」(平成11年)では、キャリア教育を「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」であるとし、進路を選択することにより重点が置かれていると解釈された。
- また、キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書(平成16年)では、キャリア教育を「『キャリア』概念に基づき『児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育』」にとらえ、「端的には」という限定付きながら「勤労観、職業観を育てる教育」としたこともあり、勤労観・職業観の育成のみに焦点が絞られてしまい、現時点においては社会的・職業的自立のために必要な能力の育成がやや軽視されてしまっていることが課題として生じている。(p.18脚注)

キャリア教育＝一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

勤労観・職業観とキャリア教育

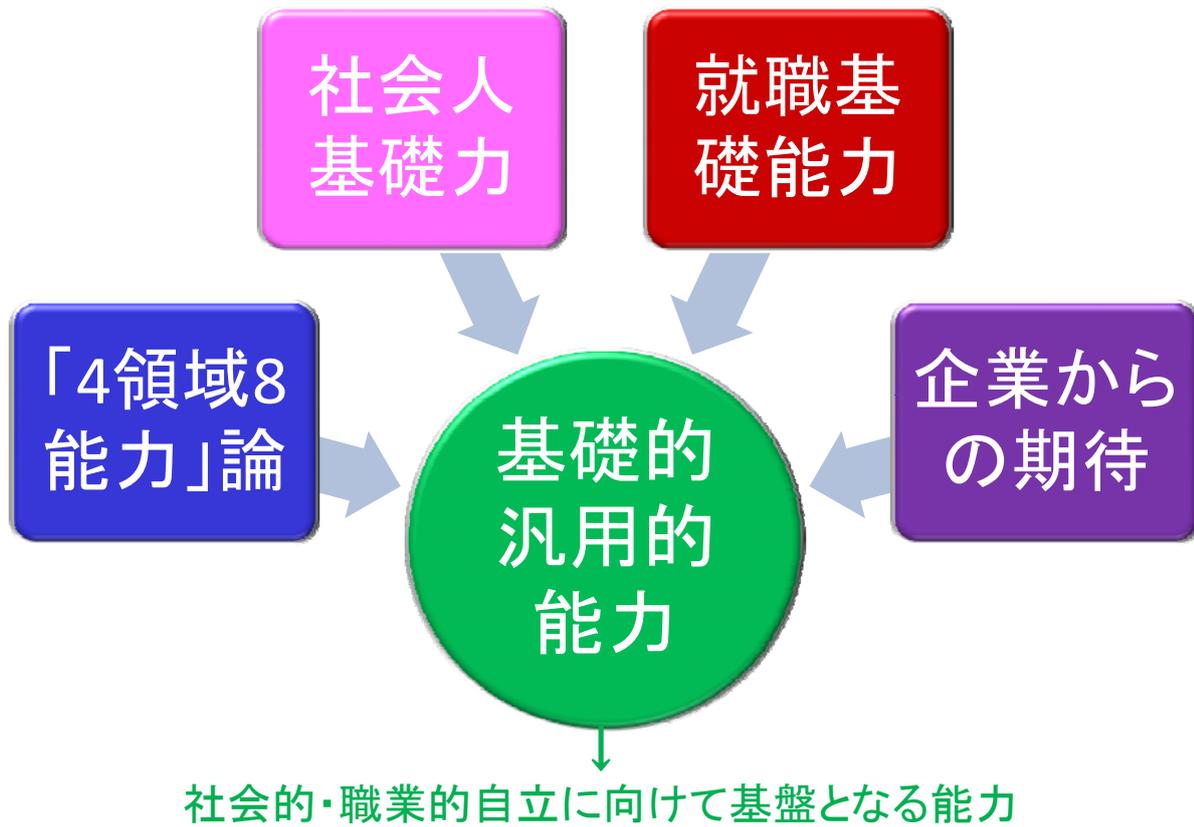
- 働くことや職業に対する理解の不足や安易な考え方など、若者の勤労観・職業観等の価値観が十分に形成されていないことが指摘されている。自らの人生の中で「働くこと」にどれだけの重要性や意味を持たせるのかは、最終的に自分で決めることである。その決定の際に中心となる勤労観・職業観も、様々な学習や体験を通じて自らが考えていく中で形成・確立される。
- (中略)このようなことを踏まえ、後期中等教育修了までに、生涯にわたる多様なキャリア形成に共通した能力・態度を身に付けさせることと併せて、これらの育成を通じて価値観、とりわけ勤労観・職業観を自ら形成・確立できる子ども・若者の育成を、キャリア教育の視点から見た場合の目標とすることが必要である。(p.30-p.31)

2. 基礎的・汎用的能力の提示 【各学校での目標設定のたたき台として】

「4領域8能力」論

将来設計能力に限定されない広がり

職業的（進路）発達にかかわる諸能力		
領域	領域説明	能力説明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションが豊かながら、自己の成長を果たしていく能力
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や多様な役割及びその様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考える能力
		【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力
将来設計能力		夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力
		【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力
		【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力



「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

例えば、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等が挙げられる。

「自己理解・自己管理能力」は、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

例えば、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等が挙げられる。

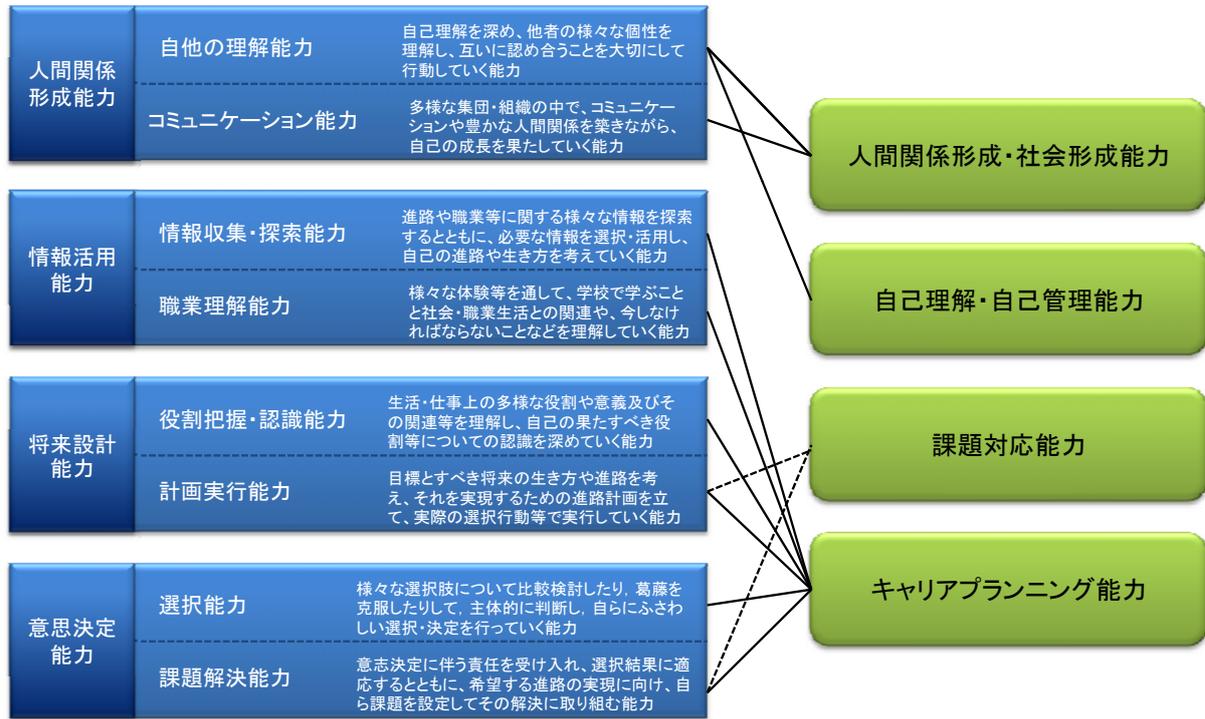
「課題対応能力」は、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

例えば、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等が挙げられる。

「キャリアプランニング能力」は、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

例えば、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる。(第1章3(2)③)

これまでの蓄積を生かした実践を



あわてずに、着実な移行を

- 「新たな課題がまた降って湧いた」は誤解
 - これまでの蓄積を生かすことが何より重要
 - これまでの誤解を脱し、実践のバージョンアップを図るチャンスとして生かす
 - 4領域8能力も「例」
 - 「基礎的・汎用的能力」も
 - どのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるのかは、学校や地域の特色や子どもの発達段階によって異なる
 - 各学校では、これらの能力を参考にしつつ、それぞれの課題を踏まえて具体の能力を設定し、工夫された教育を通じて達成する

あわてずに、着実な移行を

- 「何も変える必要はない」も誤解
 - 「4領域8能力」では、「基礎的・汎用的能力」の重要な要素である「課題対応能力」の育成について必ずしも十分な具体性を伴って提示されてこなかった。
 - 「4領域8能力」においては、「計画実行能力」や「課題解決能力」が求められていたものの、自らの将来の生き方や進路とのかかわりを重視した実行力や課題解決の力の育成に力点が置かれており、広く「仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力」の育成については必ずしも前面に出されてはいなかった。
 - 「基礎的・汎用的能力」は、「4領域8能力」においては焦点化されてこなかった「自己管理」の側面、例えば忍耐力やストレスマネジメントなども重視する。

3. キャリア教育充実のための方策 【各学校段階共通の方策の提示】

基本となる8つの方策

(1) 教育方針の明確化と教育課程への位置付け

- ① 各学校におけるキャリア教育に関する方針の明確化
- ② 各学校の教育課程への位置付け

(2) 重視すべき教育内容・教育方法と評価・改善

- ① 多様で幅広い他者との人間関係の形成
- ② 社会・経済の仕組みや労働者としての権利・義務等についての理解の促進
- ③ 体験的な学習活動の効果的な活用
- ④ キャリア教育における学習状況の振り返りと、教育活動の評価・改善の実施

(3) 教職員の意識・指導力向上と実施体制の整備

- ① 教職員の意識や指導力の向上
- ② 効果的な実施のための体制整備

教育方針の明確化と教育課程への位置付け

1. 各学校におけるキャリア教育に関する方針の明確化

- ・ 初等中等教育段階では、キャリア教育の全体計画やそれを具体化した年間指導計画を作成している学校が少ないという指摘があり、子どもの発達段階に応じた課題や、それぞれの地域や学校の実態等を踏まえ、キャリア教育の指導計画を作成することが必要である。

2. 各学校の教育課程への位置付け

- ・ ここで留意すべきは、キャリア教育はそれぞれの学校段階で行っている教科・科目等の教育活動全体を通じて取り組むものであり、単に特定の活動のみを実施すればよいということや、新たな活動を単に追加すればよいということではないということである。(中略) また、各教科等における取組は、単独の活動だけでは効果的な教育活動にはならず、取組の一つ一つについて、その内容を振り返り、相互の関係を把握したり、それを切に結びつけたりしながら、より深い理解へと導くような取組も併せて必要である。さらに、各教科等における取組だけでは不足する内容を把握し、その内容を付け加えていく取組も必要である。

重視すべき教育内容・教育方法と評価・改善

1. 多様で幅広い他者との人間関係の形成

- 「人間関係」を理由に離職する者が少なくないことや、自分でも実現できそうな身近なモデルがないと考えている者がいることなど、人間関係をめぐる課題は多い。(中略)また、このような場や機会を設けるに当たっては、地域社会やNPO(特定非利益活動法人)等の学校外の教育資源と連携・協力していくことが不可欠である。

2. 社会や経済の仕組みなどについての理解の促進

- 今日の社会が分業によって相互に支え合って成り立っているといった社会・経済・雇用などの基本的な仕組みについての知識や、税金・社会保険・年金や労働者としての権利・義務などの社会人・職業人として必ず必要な知識、男女共同参画社会の意義や仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の重要性など、キャリアを積み上げていく上で最低限必要な知識について、自らの将来にかかわることとして理解させることが必要である。

重視すべき教育内容・教育方法と評価・改善

3. 体験的な学習活動の効果的な活用

- 子ども・若者の発達段階を考慮すると、各学校段階における体験的な学習活動の意義や内容は異なってくるものと考えられる。例えば、中学生の時期に行う職場体験活動は、ある職業や仕事を暫定的な窓口としながら職業や仕事を知ると同時に、働く人の実際の生活に触れて社会の現実に向き合うことが中心的な課題となると考えられる。また、このような中学生の体験を踏まえて行う高等学校等の生徒による就業体験活動は、将来進む可能性のある仕事や職業に関連する活動をいわば試行的に体験することにより、それを手掛かりに社会人・職業人への移行準備を行うことが、中心的な課題となると思われる。

4. キャリア教育における学習状況の振り返りと、教育活動の評価・改善の実施

- キャリア教育の実践が、各機関の理念や目的、教育目標を達成し、より効果的な活動となるためには、各学校における到達目標とそれを具体化した教育プログラムの評価の項目を定め、その項目に基づいた評価を適切に行い、具体的な教育活動の改善につなげていくことが重要である。

教職員の意識・指導力向上と実施体制の整備

1. 教職員の意識や指導力の向上

- キャリア教育は、教科・科目等の教育活動全体を通じて取り組むものであり、すべての教職員がキャリア教育を正しく理解し、その意義と必要性を十分に認識するとともに、教職員一人一人が自ら担当する教科・科目や教育活動の中で具体的に実践できる力を高めることが必要である

2. 効果的な実施のための体制整備

- キャリア教育においては、児童生徒に社会や職業との関連を意識させる学習が不可欠であることから、学校外の教育資源である地域・社会と協力していかなければ、効果的な指導を行うことは困難である。



ありがとうございました